

名古屋大学

3つのセンターを持つ学生支援本部が連携してサポート

学生支援本部のスタッフが横につながってシームレスなサポート体制を実現

名古屋大学は市内に3つのキャンパスを持ち、9学部と13研究科に約1万6000人の学生が学んでいます。また同大学では特に理系学部の学生のおよそ8割が大学院へと進学し、さらには博士課程に進む学生も少なくありません。

「学部生から博士課程学生まで、多世代の学生が学ぶ本学の支援体



学生支援本部 キャリアサポートセンター

副センター長

船津 静代 氏 (写真左)

助教 専任相談員

竹本 美穂 氏 (写真右)

助教 専任相談員

制の大きな特徴は、学生支援本部として3つのセンターを持っていることです。臨床心理士や精神科医によるカウンセリングや診察などが受けられる学生相談センター、障がいのある学生の修学支援を行うアビリティ支援センター、そしてキャリアに関する相談や情報提供を行うキャリアサポートセンター。縦割りになってしまうがちな支援を横につながるためにも受付窓口を統一し、スタッフは三位一体で取り組んでいます。スタッフルームは高校の職員室みたいなところで、学生をどう支援するかスタッフ同士がいつも話し合っています」と説明するのは、キャリアサポートセンター副センター長の船津静代氏。入学から卒業まで、途切れることなく支援を提供しています。

「学生支援本部では、入学後のガイダンスで、障がいやハラスメント、LGBTQなどを含めた異文化や多様性について、全学生に向けて講義を開催しております。身近なところにもさまざまなバックグラウンドのある仲間がいること、それをお互いに理解し合うことの大切さを伝えることも学内の環境整備の一つだと考えています」



本人の自覚と行動が、就職活動を納得いくものに変えていく

アサポートセンターの竹本美穂氏。そんな中で障がいのある学生は、サポートプログラムに積極的に参加し、得るべき情報を見出して少しずつ前向きに行動していけるようになります。また、ガイダンスには保護者も多く参加し、支援のしくみや外部機関との連携などについて相談されます。

「就活のスタート時には不安そうなお様子だったり、ちょっと投げやりな様子だったりする学生も、相談や講座受講、セミナーやインターンシップなどの経験を通して確実にステップアップしていきます。まずは

自分がどんなことに不安を感じているかを明確にし、何が得意で何が苦手なのかを知り、そこからどんな対策をすべきかを見出して自信をつけていくのです。そんな学生たちの様子を見てみると嬉しく思います」と両氏。これからも3つのセンターが連携しながら、より多くの学生が希望に沿った就職先を見つけていけるように支援を続けていきたいと語ります。



MESSAGE

学生へのメッセージ

失敗が許される学生時代こそ本気でぶつかってください

障がいの有無にかかわらず、大学に入学されたみなさんには学ぶ力があるはずですよ。就職活動はうまくいかないこともあるけれど、その中で必ず自分自身が鍛えられ、成長します。失敗しても評価にさらされない学生時代こそ、本気でぶつかってください。自分がどんな時に失敗するのか、どんな癖があるのかを自己理解し、また自分の障がいのためにどんなことが難しいのかを周囲に伝える訓練をしてください。支援の専門家とともにいる大学生活の中でそれらの力を磨き、社会に出た時にさらにたくましい人になってほしいと願っています。